



## 霧一小的27年を霧小へつないで…

～3枚の航空写真から～

副校長 新美 美由子

校長室には3枚の航空写真が飾ってあります。1981年（昭和56）に撮影した写真と、1999年（平成11）に撮影した写真、そして今年2005年（平成17）に撮影した写真です。

3枚を比較すると校舎の周りの変化を知ることができます。1981年の写真には、学校の周りに樹木がほとんど写っておらず、小川の流れがはっきり見てとれます。1999年の写真はもうすでに現在に近く、小川や池の周りに樹木がたくさん写っています。樹木が成長し緑が豊かになるとともに、学校も成長してきたように思えました。10月7日の開校記念式で4年生が霧一小的の27年間を振り返ってくれたことを思い出し、学校がどのように変わってきたのか調べてみました。

1979年（昭和54）の開校当時の児童数は132名、職員は17名でした。年度末の3月には児童数が227名となりました。次の年1980年（昭和55）に校章が制定されました。1枚目の写真が撮影された1981年の児童数は624名。1982年（昭和57）に校歌と校旗が制定されました。同じ年に霧が丘第二小学校が開校しています。その後も児童数は増加し、1983年（昭和58）には834名まで増えました。次の年の1984年（昭和59）に霧が丘第三小学校が開校しています。そして、児童数は少しずつ減り、10周年を迎えた1989年（平成元年）は563名、2枚目の写真が撮影された1999年は（20周年）270名に減少しました。2005年11月現在の児童数は199名、職員数18名です。

児童数は減ってきたものの、NHKの合唱コンクールで銅賞を受賞したり、全市にむけて算数科の授業の公開や、児童指導の研究発表会を開催したりと、霧一小的の教育活動の充実がうかがえます。

では、学校教育の柱となる教育目標はどのように変わってきたのでしょうか。開校した当時の目標は、「よく考える子・進んで学ぶ子」「やりぬく子」「心の豊かな子」でした。その後「課題を見つけ豊かな発想をもとに自ら学ぶ子を育てよう」「人間性豊かな子どもを育てよう」という目標になり、現在の「心楽しくたくましく生きる霧一の子」は市の研究協力校として、児童指導の研究に取り組んだ1996年（平成8）～1997年（平成9）の頃に考えられた目標です。こう見てくると、霧一小的の教育は「心の豊かさ」と「自ら学ぶ力」の育成を目指してきたと言えます。現在の霧一小的の子どもたちの育ちは、この二つの教育目標が基盤となっています。

本校は来年「霧が丘小学校」として生まれ変わりますが、霧一小的が27年間培ってきた「心の豊かさ」と「自ら学ぶ力」の育成を目指した教育を霧小に継承していけるよう、準備を進めて行きたいと思います。